



開発途上国からの受け入れを増やす
当法人では、ベトナムや紛争地域であるミャンマーから技能実習生の受け入れを積極的に行っています。実習生の介護技術の向上を図っており、当法人でも欠かすことのできない人材となっています。



少子高齢化が進み介護が必要な高齢者の増加により、介護施設の需要は高まっていると言えます。今後、団塊の世代が75歳以上となるため、さらに介護が必要な高齢者が急速に増えていくことが予想されています。

**高年齢者福祉のために
人材育成に取り組む**

おいては人材不足が深刻であり、このままでは近い将来必要な人材を確保できなくなる恐れがあります。

そこで当法人では平成21年から質の高い福祉を実現するために、優れた技術と人間性を兼ね備えた人材を育成し、地域社会の福祉の増進に寄与することを目的に「介護福祉士養成事業所」を運営しています。これは、国家資格である介護福祉士取得のために必



社会福祉法人 以和貴会

まちのおしごと

やってみたい仕事が見える！



VOL.31

需要が増す
高年齢者福祉を見つめる

当法人は、西丸重晴前理事長が昭和60年に開設し、串良町細山田で「特別養護老人ホーム以和貴苑」を開苑しました。その後「デイサービスセンター以和貴苑」や串良町下小原に「グループホームさくら通」の開所等、串良町を中心に高年齢者福祉サービス事業を展開しています。

聖徳太子が制定したと言われる十七条憲法第一条「以和為貴」が法人名の由来であり「人と人が睦まじく親しくすることを貴いものとする」が教養となっています。理念にもあるとおり、施設利用者が日々楽しくゆったりと生活していただけるための気配りを心掛け、利用者及び職員の心身の健康を守り安心できるサービスを提供することを職員一丸となって取り組んでいます。

社会福祉法人 以和貴会
西丸重晴 理事長



り、職員が採用後すぐ取得可能な有給休暇の導入、有給取得率の向上、※くるみん子育てサポート認定の取得、スキルアップ資格取得完全サポート制度、ライフスタイルに合わせた多様な働き方の導入など、入所者と直接接する職員の働きやすい環境作りを行っています。

今後は利用者へのサービスの質向上のために、より高度なICT・IoT技術等の導入や職員がやりがいを持って無理なく働ける環境作りを行いながら、高年齢者福祉だけでなく障がい者福祉等様々なものに取り組んでいき、介護支援の幅を広げていきます。

※従業員の仕事と育児の両立支援に取り組む企業が取得できる認証のこと



社会福祉法人 以和貴会

- 住所 鹿屋市串良町細山田 5902-3
- 電話 0994-62-2430
- 設立 昭和60年 ○代表者 西丸 晴彦
- 従業員数 132人
- 平均年齢 45.9歳
- 採用実績 11人(令和5年度)
- 福利厚生 各種保険(雇用、健康、厚生年金、労災)、住居手当、資格手当、業務手当、退職金共済制度等



要な実務者研修を実施し、基本的な社会福祉制度や高年齢者福祉サービスを学び、介護技術演習を通じて様々なことを経験することで、福祉施設で即戦力となる人材を育成しています。また、介護福祉士の資格取得を目指している地域の技能実習生も学びに来るなど、大隅半島における人材の知識と技術の向上に努めています。

おすすめスポット

鹿屋女子高校の近くにある「一番食堂」さんは昔ながらの定食屋という感じで、中学生の頃から利用させてもらっています。進学で一旦鹿屋を離れていましたが、帰ってきてからも変わらないスタイルでうれしかったです。

おすすめはやっぱり「ラーメン」。安くて量が多くておいしくて最高です。

最近では疲れている夜勤明けに行ったり、友人とも、家族とも行くなどいろんな場面で利用しています。皆さんもぜひ訪れてみてはいかがでしょうか。



一番食堂

〒893-0064
鹿屋市西原1丁目29-9
☎0994-43-7239
店休日 水曜日(夜)、木曜日
営業時間 11:00~15:00、
18:00~21:00



私の仕事

私は介護職をしていて、現在はサブリーダーとして経験の浅い職員や技能実習生の相談にも乗っています。入社当初は当然分からないことばかりだったので、先輩職員のご指導を仰ぎながら経験を積み、今年始めに国家資格の介護福祉士を取得しました。

職場は色々意見を出し合えて仕事しやすい環境だと思います。仕事を覚えた現在でも先輩の意見はしっかりとすることもあるので、その都度初心に戻るようにはしています。

今後は、社会福祉士など関連する資格はなるべく取得し、介護の幅を広げていけるように頑張っていきたいと思っています。



介護福祉士
くらがさき けいすけ
倉ヶ崎 馨允 さん
(25歳/入社4年目)

本市出身、鹿屋高校卒業。祖父を自宅で介護していたことや、母が勤務していた当苑が身近な存在だったことからこの道に進んだのは必然だったのかも話す。